

館報 教育記念館

No. 104

令和7年3月 発行



アイデアロボット展(展示コーナー)



高校生ものづくりフェスタ



アイデアロボット展(体験コーナー)



小学生ロボットづくり教室



作ったロボットでサッカー対戦

主な内容

- ◎教育時評「[ものづくりはひとづくり] ~教育に望むこと~」
株式会社若野鋳造所・代表取締役社長 若野 歌子 2
- ◎後期恒例展等から 4
「児童・生徒によるものづくり展」「富山県造形教育作品展」「退職厚生部富山支部会員作品展」
「アイデアロボット展」「高校生ものづくりフェスタ」「小学生ロボットづくり教室」
「富山県中学校美術展」「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」
- ◎わが校の歴史から 7
射・放生津小学校 射・新湊小学校
- ◎「学ぼう！ふるさと未来」支援事業実践活動報告会 8
令和7年度の展示計画 あとがき



発行所／公益財団法人 富山県ひとづくり財団 富山県教育記念館 〒930-0018 富山市千歳町 1-5-1
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001 E-mail: toyama@t-hito.or.jp https://www.t-hito.or.jp
(教育記念館会議室ご利用の場合 ☎(076) 433-2770)
発行人／富山県教育記念館 館長 富田 利通 印刷所／いおざき印刷株式会社



「ものづくりはひとづくり」～教育に望むこと～

株式会社若野鋳造所

代表取締役社長 若野 歌子

このお話をいただいた時、さて私に何が書けるのかと悩みましたが、ちょうど今年還暦を迎えるので節目ということで、今、思うことを書いてみようと思います。

(株)若野鋳造所は、高岡で鋳物を製造している社員50名位の会社です。

もうすぐ創業150年を迎える老舗の会社です。昔は銅の美術品を作っていましたが、戦後になって鋳鉄の機械鋳物にシフトしました。1トン、2トンという大物を中心に「手込め」という方法で砂型を製作しています。まさしく人の手で砂を固め、その中にこれも同じ製法で作った「中子」というものを手で組み込みます。自動化するには難しい複雑で大きな製品を中心に製作しています。そのため人の力が大きな役割を果たしています。まさしく技術のたまものです。

最近、若者の就職の傾向がホワイトカラーにどんどん進んでおり、まさに当社のような職業は選ばれないのが現状です。その中でも当社は平均年齢40歳で、業界では若いほうです。高校への就職活動を長年続けていることはもちろんですが、従業員一人一人が自分達の会社という意識を持って自発的に動いてくれることが、若者を惹きつける雰囲気を作っているのだと思います。また、そのようにしむけていくことが大事です。それは会社も学校も同じではないでしょうか。

今の学校教育では、ITの教育が早い段階から取り入れられているので、小学生でもプログラミングができると聞いています。益々IT化していく世の中でそういうこともすごく大事なことです。が一方で技術が必要な、AIにはできないこともたくさんあるのです。当社のような仕事はそのひとつです。

人には向き不向きがあります。当社で言えば、一つ一つ「中子」というパーツを組み込んで鋳型を作っていくという繊細な作業、一方で1500度まで上がった溶けた鉄を扱うという度胸のいる作業と、両極端の仕事があります。どの従業員がどのような工程に向いているかを見定めて、より力の発揮できる工程を任せることがすごく大事です。いくら不得意なことを教えて早くやらせようとしても、好きや得意にはかないません。その一つ一つをまとめて目標に向かってより大きな力に変えていくことこそが、私たち中小零細企業が生きていく術です。

先日、報道でも取り上げられていましたが、2038年春の富山県の中学卒業者は現在より3割減るそうです。それに向けて県立高校の再編が段階を踏んで行われます。どのように進められるかという内容は、これから有識者の方々や関係者の方々の意見を聞き、話し合いで決めていくそうです。個人的には、特徴のある学校を作ってほしい、「ものづくり富山」を活かせる学校づくりをしてほしいです。普通科ばかりではなく、「ものづくり科」みたいな学科を作ってほしいです。

富山機電工業会を中心とした「富山県中学生ものづくり教育振興会」が行っている、県内の製造業企業への「工場見学」は素晴らしい取組だと思います。少しでも製造業に興味をもってくれる生徒を増やすことは富山県の製造業を発展させるために不可欠なことです。生徒一人一人の興味を伸ばしていけるような教育をし、そのフォローができる仕組み、しいてはそのような高校ができることを望みます。

日本国内の労働人口は年々減っていきます。当社には10名の外国人実習生がいます。できれば日本の人を雇いたいのですが、前述したように難しく、外国人実習生は必須になっています。一方で国内ではニートが増えているのも現状です。何とかその食い違いが少しでも減るような教育に少しでもなって、製造業を選んでもくれる若者が増えることを期待したいです。



工場内



「鋳型」の組立作業



電気炉の注湯作業

後期恒例展 ①

第15回 児童・生徒によるものづくり展 10月18日(金)～11月10日(日)

県内には、高岡市のものづくり・デザイン科の取り組みをはじめ、伝統的、創作的な作品の制作に取り組んでいる学校が多く見られます。今年は、小・中・義務教育学校・特別支援学校・高等学校44校、221名の児童・生徒が制作した213点の作品を展示しました。



- きれいな作品がたくさん並んでいました。私もこんな作品を作れたらいいな。
- 高校生がこのような作品を作ったなんて驚き！

第55回 富山県造形教育作品展

11月16日(土)～12月1日(日)

幼稚園、認定こども園、小中学校、高等学校から子どもたちの280点の作品が展示されました。家族連れをはじめとして多数の来館者が年齢や学年ごとの作品鑑賞を楽しみました。



- いろんな絵やこうさくがあって、たのしかったし、とてもじょうずでした。
- 作品を通じて、子供の成長が感じられます。毎年楽しみにしていて、今年もワクワクしました。



第38回 富山県教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展

10月6日(日)～10月12日(土)

今年度は、富山支部創立50周年記念の作品展でした。
絵画(版画)・書・写真・彫刻・工芸等の多種多様な約50点以上の作品が、訪れた大勢の方の目を楽しませていました。



- 年を重ねられるにつれて、ますます腕を上げられたのではないのでしょうか、凄いです。
- 元気をいただきました。私もいつまでも瑞々しい感性を持ち続けられたらと思いました。



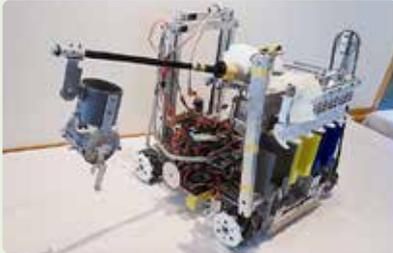
後期恒例展②

ロボットづくりを通して、ものづくりの魅力を育む

第20回 アイデアロボット展

12月7日(土)～1月5日(日) 12:00まで

生徒や学生の技術、ロボット製作にかける情熱を知ってもらおうと、中学校、高等学校、高等専門学校の13校(1クラブ含む) から18点のロボットを展示しました。ロボットコンテストの様子や、障害物を避けたり物を運んだりする様子や機構を紹介する映像も流しました。



● 短期間で、このようなロボットを創り上げられたのは素晴らしいと思います。いろんなアイデアが盛り込まれていて、見飽きなかったです。(中学生)



関連企画 令和6年度 高校生ものづくりフェスタ 12月1日(日) 10:00～15:00

県内5校の工業高校生の研究・製作した作品やロボットを見学・操作体験できる「高校生ものづくりフェスタ」を県民会館で行いました。多くの方が訪れ、工業高校・各学科のものづくりの魅力に触れました。



関連企画 令和6年度 小学生ロボットづくり教室 1月5日(日) 9:00～12:30

小学校4～6年生22名が、中学の技術・家庭科の先生方の指導のもと、はんだ付けで回線などを接合してサッカーロボットを製作しました。コントローラーを操作し、白熱したサッカー対決を楽しみました。



● ハンダ付けをしてロボットを作った。これからもよい体験をして、一歩ずつ夢に近づけていきたい。
● 作るだけでなく、他の人と対戦できるから参加しました。親切な先生たちに助けをもらいながら、ちがう学校の人と協力してロボットを作ったり、作ったロボットでサッカー対戦したりできて楽しかったです。

後期恒例展 ③

第35回 富山県中学校美術展

1月17日(金)～2月9日(日)

県内77校の中学生が、日頃の学習や部活動で制作した絵画や造形作品188点を展示しました。中学生の若き感性が豊かに表現された作品は、多くの来場者を楽しませました。



- 地震による被災地の学校の自画像が素晴らしかった。明るい表情に救われる。
- ストレートに中学生の気持ちが伝わってきて、感動した。中学生の頃、授業そっちのけで描いていたことを思いだした。もう一度描いてみようか。
- どうなっているんだろうと思わずのぞき込んでしまいました。見ていて楽しい展覧会でした。

富山県版造形教育作品展・秀作回顧展

2月14日(金)～3月23日(日)

過去に当館で開催された「県版造形教育作品展」の中から、平成元年から2年までの優秀な作品56点を展示しました。「民話、家庭や学校での様子」を題材にした作品から、子供たちの感性や表現力を味わうことができました。



常設展示室をほんの少しリニューアル!!

2階 教育記念室 ～とやま教育のあゆみ～

●昭和期(戦前・戦中) 青い目の人形

県内ゆかりの8体目が発見されました! 写真で紹介します。

●昭和期(戦中) 学童集団疎開

R 6企画展「戦火を逃れて富山へ来た子どもたち」の資料も加えて展示しました。

●昭和期(戦後) 県内の先生たちが作成した教科書が全国へ

「小学生の科学」の実物(写)等を展示しています。

●校歴等学校情報

今年度、新しく開校した学校の情報も見ることができます。



3階 郷土先賢室 ～とやまの誇る人たち～

●「先賢情報BOX」を設置 これまでに発行された館報に掲載した先賢者の資料を50音順に検索できます。是非ご利用ください。

わが校の歴史から

長い歴史に幕・統合 新に「射水市立新湊放生津小学校」へ

射水市立放生津小学校



ふるさとを愛し、未来を切り拓く人財に

本校は、明治6年3月10日、専念寺の中に新湊町川東第三番小学校として誕生しました。校区は、射水市北部の海岸寄りに位置し、海王丸パークや内川を中心に水辺に親しむ街づくりを推進しています。また、室町幕府十代将軍足利義材が幕府を開いた地に学校が建てられており、地域には、歴史的、文化的に価値の高い神社、仏閣、史跡及び伝統芸能が多くあります。その中でも、子供たちは祭りが大好きで、春の獅子舞、夏のものじた踊り、秋の曳山祭りに多くの子供たちが参加しています。

150年余りの歴史をもち、今日に至るまでの間に多くの卒業生を送り出してきた本校は、令和7年3月をもって閉校を迎えます。そして、4月から射水市立新湊小学校との統合により「射水市立新湊放生津小学校」として両校の教育のよさを引き継ぐとともに、新たな校風と伝統を築き、歴史を刻んでいきます。子供たちには、ふるさとを愛し、未来を切り拓く人財に育ってほしいと願っています。

射水市立新湊小学校



未来へ チャレンジ チェンジ

本校は、明治6年3月、新湊町川東第三番小学校として創立され、校名の変更等を経て今日に至っています。創立から151年という月日が流れ、その間中伏木小学校と統合し、両校合わせて多くの卒業生が学び舎を巣立ち、それぞれの場で活躍しています。

今年度は、「未来へ チャレンジ チェンジ」を合言葉に、新湊小学校「4つの伝統」の継続と「ふるさと学習」に取り組みました。4つの伝統である「挨拶」「歌声」「掃除」「思いやり」は、6年生を中心に151年の歴史を飾るにふさわしい活動となりました。「ふるさと学習」では、地域や保護者の皆様の協力のおかげで、「新湊のすてき」を再発見することができました。

4月からは「新湊放生津小学校」として歩みを始めます。新湊小学校の伝統と歴史を大切に、地域に愛着と誇りをもって、新しい仲間と新たな校風を築いていってほしいと願っています。

教科書等の閲覧について

当記念館では、教科書を中心に約1万点の教育関係書籍を収蔵しています。

- 江戸時代の古教科書
- 明治時代以降、戦前の教科書
- 戦後の教科書
- 県内学校の周年誌 他

閲覧を希望される方は、

受付 または **財団窓口** まで

お申し出ください。



「学ぼう！ふるさと未来」支援事業 実践活動報告会

令和7年2月12日(水)

※ 詳しい活動の様子は、財団ホームページに各校の実践報告書として掲載されています。

滑川市立田中小学校

49周年を迎えた姉妹校との交流、新校舎に隣接する木造の旧校舎や地域人材との関わりを大切にしながらふるさとへの思いを深めた。



ビオトープにホタルの幼虫を放流



木造の旧校舎で行った田中っ子祭り(縦割り班活動)

射水市立歌の森小学校

子供たちが捉えた地域のよさを発信することで、大人までもよさを再認識する機会になった。地域の中で愛情を感じ子供たちは自己実現につなげていくことができた。



「見つけたよさ」を学習参観で発表



園児の思いを聞いて、遊びを考える

射水市立大門小学校

本物に触れる活動、児童主体の活動、系統的に学校全体で川やビオトープに関わる活動を実施。さらに専門家や保護者、教職員が関わり地域一体で学びを推進できた。



飼育委員会による水槽掃除



ビオトープアドバイザーから鴨川で捕まえた魚の説明を聞く

射水市立新湊小学校

「新湊の魅力を知り発信して！」地域の人の思いを聞くことで子供たちは主体的に何ができるのかを考え始めた。双方向の交流は充実した学びにつながった。



地域の人が講師となつての学習



子供たちが企画、運営した感謝の会

南砺市立南砺つばき学舎

地域の特産物である椿栽培を、学年の系統性を考え全校での帯学習として整理。地域に根ざした活動を通して地域の方と交流し、愛着と誇りを育んでいる。



椿の取り木を学ぶ

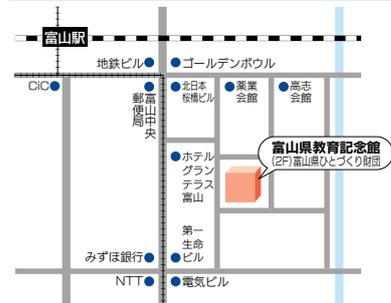


田楽行燈 蠶引き後の色塗り

あ・と・が・き

年明け1月7日、NYタイムズが「行くべき52カ所」に富山市を選出し発表した影響でしょうか。県外や海外からの来館者が見られるようになりました。英語表示が必要になるのではと思うようになりました・・・。

ご多用の中、原稿をお寄せ戴いた皆様に感謝申し上げます。



令和7年度の展示計画

- ◆企画展「郷土の先賢展「仕事をおこす！」～富山から社会を拓いた起業家たち～」
4月17日(木)～6月30日(日)
- ◆第18回「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」
7月4日(金)～8月19日(火)
- ◆第23回「さんすうワールド展」
7月9日(水)～9月30日(火)
- ◆第22回「子どもの目、自然不思議発見写真展」
8月28日(木)～9月30日(火)
- ◆第39回「富山県教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」
10月5日(日)～10月11日(土)
- ◆第16回「児童・生徒によるものづくり展」
10月17日(金)～11月9日(日)
- ◆第56回「富山県造形教育作品展」
11月15日(土)～11月30日(日)
- ◆第21回「アイデアロボット展」
12月6日(土)～1月11日(日)
- ◆第36回「富山県中学校美術展」
1月16日(金)～2月8日(日)

富山駅
近く



会議室を一般の方に安価でお貸しして、打合せや趣味の活動などにご利用いただいております。詳しくは教育記念館ホームページをご覧ください。

<https://www.t-hito.or.jp/reserve/index.html>

会議室をご利用ください!

公式 X (旧Twitter)

https://x.com/t_hitozukuri

財団の取組みや富山県教育記念館の展示情報を掲載しています。ぜひ、フォローをお願いします。



教育記念館HP

<https://www.t-hito.or.jp/>

随時更新しています。

